

電気通信大学 平成16年度シラバス

授業科目名	認知言語論		
英文授業科目名	Cognitive Linguistics		
開講年度	2004年度	開講年次	3, 4年次
開講学期	6, 8(5, 7)学期	開講コース・課程	昼間コース
授業の方法		単位数	2
科目区分	総合文化科目-上級科目-テーマ別セミナー		
開講学科・専攻	情報通信工学科 情報工学科 電子工学科 量子・物質工学科 知能機械工学科 システム工学科 人間コミュニケーション学科		
担当教官名	坂本 真樹		
居室	東1-712		

公開E-Mail	授業関連Webページ
sakamoto@hc.uec.ac.jp	

【主題および達成目標】
<p>認知科学、認知心理学、生態心理学、人類学、哲学などの関連諸分野の研究成果を積極的に取り込む学際的な研究として注目を集めている「認知言語学」の枠組みを通して言葉について考えます。日本語や英語の言語現象をみてゆくことによって、2つのことを学ぶことを目標とします：1) 毎日当然のように使っているながら実はよくわかっていない言語と人間の言語能力について理解を深めること 2) 直接観察することが難しい人間のもつさまざまな認知能力を、それが反映される言語現象を分析することによって観察すること</p>

【前もって履修しておくべき科目】
なし

【前もって履修しておくことが望ましい科目】
なし

【教科書等】
<p>教科書：適宜プリントを配布する 参考書：山梨正明著「認知言語学原理」くろしお出版 西村義樹編「認知言語学?：事象構造」東京大学出版会</p>

【授業内容とその進め方】

第1回：ガイダンス（認知言語学の基本的考え方）
第2回：言語理論の歴史における認知言語学の位置付け
第3・4回：視点の投影・推移と言語
第5回：参照点能力と言語
第6・7回：メタファー
第8回：文法化
第9・10回：言語知識形成
第11・12回：事態解釈と構文
第13回以降：認知言語学と関連分野

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

評価方法：レポートおよび授業参加度を、次のように総合評価する。
成績評価 = (授業参加度評価点 × 30%) + (レポートの評価点 × 70%)
評価基準：授業内容を理解していることを合格の最低基準とする。
具体的な言語現象について授業で学習したことを適用し、分析できる応用力の度合いに応じて評価が高くなる。

【オフィスアワー：授業相談】

適宜相談に応じるが、電話などで事前にアポイントを取ること。

【学生へのメッセージ】

無意識に言葉をお話しているときに人間が駆使している能力のすごさに気付いてほしいと思います。

【その他】